

## 第 8 回 いたばし魅力ある学校づくり審議会 小委員会

日時 令和 5 年 7 月 14 日（金）15:00～17:00

場所 区役所南館 6 階 教育支援センター研修室

## 1 特別支援教育

## 【小委員会意見のまとめ】

- ・個別最適な学びの実現とインクルーシブ教育を実現させるために、子どもたちと教員が関わりやすい職員室配置や通常学級と特別支援学級が交流しやすい教室配置を検討し、通常学級と特別支援学級のそれぞれの教員が連携を図りやすい体制の構築と、学校と保護者や地域など様々な主体と連携した支援体制の構築を考えていくことが必要である。

区の現状として、特別支援教室の全校設置などにより、特別支援教育についての理解が広まった結果、一人ひとりに寄り添った丁寧な指導の必要性がより一層認識されるようになり、特別な支援を受けながら学ぶ児童・生徒数は多くなっていることや、支援を必要とする子どもたちの推移を予測することは難しいが、区では、支援レベルに応じて特別支援学級や特別支援教室（STEPUP 教室）等を設け、学校生活支援員なども活用しながら支援体制を充実させることで、子どもたちの特性に応じた指導に努めていることを確認した。

## ●主な意見等

- ① 特別支援学級（固定級）の担任をしている教員は専科のイメージを持たれることが多いが、人事異動により変わることがある。一方で、特別支援教室の指導を行う巡回指導教員は指導日（週に数日）にあわせて出勤することが多く、それぞれ異なる体制で指導を行っている。
- ② 通常学級を担当する教員と特別支援学級を担当する教員では職員室が分かれていることが多い。
- ③ 学校長の立場から考えると、特別支援学級や特別支援教室を担当する教員も同じ職員室にいたほうがより密な連携を取ることができると感じる。一方で、別々の職員室の方が事務作業の効率が良いこともある。
- ④ 現在設計を進めている志村小・志村四中小中一貫型学校では、普通教室に隣接して特別支援学級教室を配置しており、それぞれの学級に携わる職員の職員室を同一の設計にしている。
- ⑤ 特別支援学級の子どもたちと教員の関係性はとても大事であるため、職員室を一つにすることにより、距離が離れることによる関係性への影響も考慮すべきである。
- ⑥ 子どもの指導のことを考えると、子どもの近くで見守る体制をいかに作るかが大事である。
- ⑦ 教員や子どもたちだけでなく、保護者との関わりも重要であり、情報共有などが必要であると感じる。

## 2 中間まとめ案

事務局において成文化作業を行った項番 1 から 5 について議論を行い、以下のとおり、意見が出された。

●主な意見等

(項番 2 について)

- ① 「教員の働きやすさ」についての記載があっても良いのではないか。
- ② 新型コロナウイルス感染症の流行により教育現場も様々な影響を受けた結果、GIGA スクール構想の取組の前倒しや学校行事のあり方を見直す契機にもなった。そのことを記載しても良いのではないか。
- ③ 教科教室型運営方式や職員室のフリーアドレス化といった取組は、他自治体でも話題になることが多く、注目され始めていると感じる。このような良い取組をアピールしても良いと思う。

(項番 4 について)

- ④ 大規模校の学校教育面のデメリットについて、「学年内の交流の機会が提供しにくい」とは言えないのではないか。

(項番 5 について)

- ⑤ 教員不足の状況を裏付ける分析（教員採用の現状など）があると説得力が増す。